

# 身近な社会的事象に共感し、地域の未来を追究してゆく 子どもが育つ社会科学習

- 先人たちの生き方や考え方にスポットを当てた交流タイムを通して -

武雄市立若木小学校 教諭 野方 弘道

## 要 旨

本研究は、社会科の学習において、先人の生き方や考え方と向き合うことを通して、身近な社会的事象の特色及びこれからの暮らしについて自分なりの考えを生み出していく児童を育てようとしたものである。手立てとして、地域の歴史的事象を教材化し、その中で3つの柱<ガイドブック「わたしたちの若木町と学び方カード」の活用><グループタイム><交流タイム>からのアプローチを設定した。

その結果、一人一人の児童が、地域の先人たちの願いを受け止めながら、「私たちの大切な町」を意識した自分なりの見方や考え方を形成していくことができた。

<キーワード> 地域の先人 地域教材 共感 グループ活動 話し合い活動

## 1 主題設定の理由

現代の生活は、地域の先人たちが築き上げてきた文化や産業、教育などを礎として営まれている。佐賀県の歴史を振り返ると、数多くの人々が、水利事業や藩校での教育、生業の振興などにおいて、たゆまざる努力や苦勞を繰り返しながら、地域の暮らしを向上させようと取り組んできている。その中で抱かれた思いや願いを21世紀の社会を創造する子どもたちに受け継がせていくことは大切である。これに関連し、新学習指導要領では、中学年社会科の学習において、身近な社会的事象を自分の生活と深くかかわらせる中で問題意識を抱き、その解決過程で人々の働きや自然、施設、文化財等地域の実態と向き合っていくことを通して、地域社会の一員としての自覚をもつようにすること及び地域社会に対する誇りと愛情をはぐくんでいくことが求められている。

そこで、本研究では、地域の歴史的事象を教材化し、その中で、自己の学習課題の追究を通して表出した思いや願いをクラス内で交流したり、単元を通して出会った人々の生き方や考え方に学んだりすること等を主な活動内容とした交流タイムを効果的に位置付けたいと考える。このことにより、それぞれが地域のよさに浸りながら、先に述べたねらいに迫っていくことができると考え、本主題を設定した。

\* 本研究では、「先人」を昔の人々及び地域をよく知る古老の方々とし、具体的に話を聞いたり、体験的な活動に取り組んだりしながら、事象を歴史的に思考していくことができるようにした。

## 2 研究の目標

自己の学習課題を追究する過程において、地域の先人たちの生き方や考え方とのかかわりを深めながら身近な社会的事象の特色などについて自分なりの考えを形成していく学習活動の在り方を明らかにする。

## 3 研究の仮説

単元の内容に関連する人々の営みや働き、地域の文化遺産等との出会いを年間プランに位置付け、問題解決過程において一人一人の学習をサポートする交流タイムを取り入れていけば、身近な社会的事象の特色及びこれからの暮らしについて自分なりの見方や考え方を形成していく児童が育つであろう。

#### 4 研究の内容と方法

##### (1) 文献等による理論及び指導方法についての研究を行う。

ア 人々の営みや働き及び地域の文化遺産等を今の暮らしと結び付けた学習活動の構築並びに児童の意識の高まる方向性を明らかにする。

イ 先人たちの生き方や考え方に迫るための手立てを工夫する。

##### (2) 研究主題に沿った年間プランの編成、及び地域教材の開発を図る。

(3) 身近な社会的事象について新たな考えを生み出す交流タイム（対話、話し合い、地域の人々との交流など）を学習活動の様々な場面に効果的に取り入れる。

(4) 検証授業を行い、児童の変容（各交流タイムにおける児童の発言、事前・事後のアンケート、毎時の振り返りカード等）を基に研究の仮説の有効性を検証する。

#### 5 研究の実際 - 1（授業作りの構想）

##### (1) 本研究を支える3つの柱

図1のように、本研究で目指す児童像を実現するために、「3つの柱」を設けた。柱は、一人一人の追究活動を支える学習資料として活用していくことを、そして、柱は、学び方や調べ方をグループのメンバー同士で高め合っていくことをねらったものである。柱は、調べて考えたこと等を基に地域の人々やクラスの友達と共有していくことをねらいとしている。

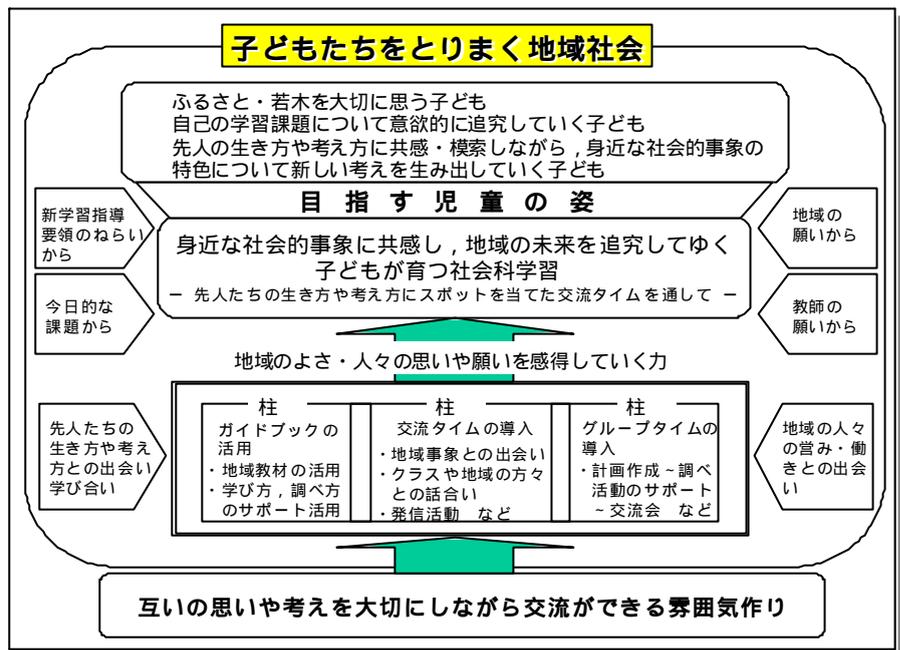


図1 目指す児童の姿

##### (2) 柱 地域の歴史資料を掲載したガイドブック「わたしたちの若木町」の活用

図2「わたしたちの若木町」（全6部構成）は、読み物資料として読んだり、若木町における様々な事象を調べる情報源として活用することをねらって作成したものである。作成段階において、写真や図を中心に編集していくことにより、若木町の特徴を視覚的にとらえることができるようにした。



第3部「文化財や年中行事」のページより



第6部 街道絵図「若木町の昔」のページより

図2 わたしたちの若木町より（抜粋）

なお、この資料は、筆者が作成した郷土資料のホームページ「佐賀の先人たち」\*（佐賀県教育センターのワークショップ）の中に掲載し、社会科の学習活動において利用することができるようにした。

\*『佐賀の先人たち』 <http://www.saga-ed.go.jp/materials/senjin/senjin/index.htm>

(3) 柱 グループタイムの導入

本研究では、グループタイムを、計画を立てる段階から調べたことを交流する段階まで設定し、その中で、ガイドブックに掲載した学び方カードのサポートを図るようにした。このことにより、自己の学習課題を追究する力、そして、調べて分かったことをクラスの友達や地域の人々と共有する受け皿を形成していくことができるようにした（図3は、検証授業における活動を基にしている）。



図3 グループタイムの流れ

(4) 柱 交流タイムの導入

子どもたちは、グループタイムを通して、共通の学習問題に対する自分なりの思いを抱いていると考える。交流タイムでは、この思いを基にクラスで話し合ったり、地域の人々の生の声を聞いたりすることにより、身近な社会的事象に対する自分なりの考えを形成していくことができるようにした。

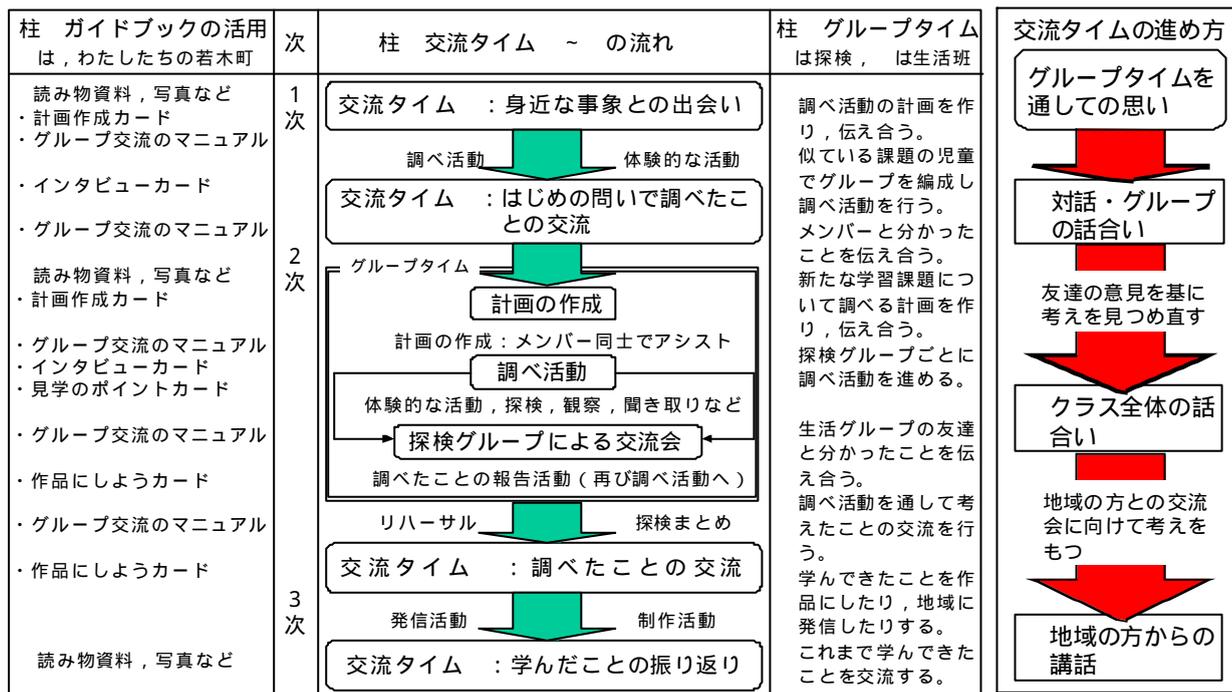


図4 3つの柱を関連付けた学びの流れと交流タイムの進め方

6 研究の実際 - 2（身近な社会的事象に対する意識の高まり）

(1) 検証授業のプラン <第3学年及び第4学年の内容（5）のイ 地域に残る文化財や年中行事>

ア 単元名 からつかい道の「むかしじまん」を若木町のみんなに発信しよう！

イ 単元の目標

地域に残されている文化財や年中行事は、古くから人々の思いや願い、努力によって受け継がれてきたことについて具体的な調査活動及び地域の方々との交流会等を通して、自分なりに考えを深めていくことができるようになる。

ウ 主な学習活動及び地域とのかかわりについて（全12時間）

表1 第1部「川古の大楠探検」(上), 第2部「唐津街道探検」(下)

検証のpoint	次	3つの柱とのかかわり	主な学習活動( )と教師の働きかけ( )	地域とのかかわり
<p><b>検証のpoint</b></p> <p><b>交流タイム</b> 川古の大楠にかかわる体験を交流する中で、調べ活動に対する意欲を喚起することができたか。</p> <p><b>グループタイム</b> 対話やグループの話し合いを通して、町のむかしじまんのひみつについて調べる計画を立てるとともに、活動の見通しをもつことができたか。</p> <p><b>交流タイム</b> グループタイムを受けて友達と交流する中で、最も身近な地域事象に対する関心が高まったか。</p>	第1次(交流タイム)	<p><b>交流タイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動からクラス全体の交流へ広げる</li> </ul> <p><b>グループタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画の作成～調べ活動～グループの交流</li> <li>学び方カードの活用</li> <li>インタビューカード</li> <li>見学ポイントカード</li> </ul> <p><b>交流タイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動からクラス全体の交流へ広げる</li> <li>わたしたちの若木町昔の若木町の様子</li> <li>文化財や年中行事</li> </ul>	<p>川古の大楠が町のじまんになったひみつを考える。</p> <p>現在の大楠と昔の大楠, ほかの町の大楠と比べながら思考を巡らせる。</p> <p><b>大くすが, 町のじまんになったひみつを調べよう!</b></p> <p>調べ活動の計画を立てる。</p> <p>グループの友達と相談しながら計画を作成させる。その後, 互いの計画について伝え合わせる。</p> <p>大楠公園を中心に調べ活動を展開する。</p> <p>うまく調べ活動を進めることができない子どもには, 教師や探検グループからのアドバイス, ガイドブックを参考にしていくように促す。</p> <p>大楠のひみつについて調べたことを交流する。</p> <p>解決できたことや新しく生まれた疑問, 地域の人々の願いなどをポイントにして交流活動を行うように促す。</p> <p>若木町の自慢を発見する活動について考えをもつ。</p> <p>唐津街道沿いの川古宿絵図を提示し, 気付きを出し合わせるにより, 町の文化財探しに対する関心を抱くことができるようにする。</p>	 <p>大楠と自分の暮らし</p>  <p>大楠の里で働く地域の方々との交流会</p>  <p>唐津街道との出会い</p>
	第2次(街道探検交流タイム)	<p><b>グループタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画の作成～調べ活動～グループの交流</li> <li>学び方カードの活用</li> <li>インタビューカード</li> <li>見学ポイントカード</li> </ul> <p><b>交流タイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動からクラス全体の交流へ広げる</li> <li>アドバイザーを迎えての交流タイム</li> <li>学び方カードの活用</li> <li>作品制作カード</li> </ul> <p><b>交流タイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動からクラス全体の交流へ広げる</li> </ul>	<p><b>街道のむかしじまんを調べ, 館長さんと交流しよう</b></p> <p>調べ活動の計画を立てる。</p> <p>計画を立てた後, グループ交流で互いの計画を伝え合わせ, 探検グループを編成する。</p> <p>唐津街道を中心に調べ活動を展開する。</p> <p>調べて分かったことや考えたことは, 学習カードに随時メモをさせていく。</p> <p>街道沿いの文化財について調べたことを交流する。</p> <p>町の文化財がなぜ, 今まで大切にされてきたのかについて公民館の方と一緒に話し合っていくように促す。また, それらには, 「人々の思いや願い」が込められていることに触れさせる。</p> <p><b>「むかしじまん」を若木町のみんなに発信しよう!</b></p> <p>公民館等に掲示する街道地図を作成する。</p> <p>本単元で学んだことの交流会をする。</p> <p>町の文化財や年中行事を受け継いできた人々の願いと公民館長さんの言葉を出し合わせるにより, 本単元で学んできたことを深く印象付けることができるようにする。</p>	 <p>地域の方と街道探検</p>  <p>公民館の方との交流</p>  <p>街道地図を作成して地域に発信</p>
	第3次(交流タイム)	<p><b>交流タイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動からクラス全体の交流へ広げる</li> </ul>		

(2) 交流タイムを通しての子どもたちの変容について(抽出見Eを中心に)

ア 交流タイム (3/12)

次ページの表2と図5は, 交流タイムの様子とE児の振り返り日記である。子どもたちは, 調べ活動において地域の方々から, 大楠を守る工夫や戦時中の大楠の様子について直に聞いている。交流タイムでは, その経験を生かしながら大楠に対する思いを形成していくことができた。Eは, 先人との出会いを通して身近な社会的事象である「大楠」を「大きさ」という1つの角度から様々な角度で見る目へと広がりつつあるのではないかととらえている。また, 「足で実際に長さを確かめてみた」ことについては, 他の子どもたちに「体験を通して事象と向き合うこと」の大切さを与えてくれた。

表2 交流タイム の発言から (抜粋)

T: 始めに提案してくれたEさんの言葉(大楠の幹回りを調べたこと)を参考にしながら、もう少し付け加えたいこと、別の考えをもったこと、アドバイスしてほしいことなどを出し合ってください。

C1: 私は、幹回りのことですが、Eさんは、測ることができなくて歩いてみたら41歩あったと言いました。私が測った時は、16mあったのですが、短すぎと言われました。

C2: よくわからないことがありました。私は、大楠の回りを調べたんですが、よくわからなかったので、誰か、アドバイスしてください。

C3: 大楠の回りは、K君たちは35mあったと言っていたんですが、お店の人に詳しいことを聞きました。そしたら、お店の人は、21mと言ってくれました。

C4: 平日の日は、200人くらいお客さんが来るそうです。

C5: 付け加えます。お休みの日は、300人から400人くらいの人が来るそうです。お年寄りも多くて、お母さんたちくらいの方が、一番少ないそうです。

C6: 戦争の頃も生きていたけど、火事にもならなくてすんだということもお店の人は言っていました。

C7: 発泡スチロールをしたのは、大楠の木がこれ以上古くなるのを止めるためだということが分かりました。

T: どうして、古くなるのを止めるための?

C8: 大楠の木は、大事だからです。大楠の木は、大切なものだからです。そして、これからも残していけないものだからです。

子どもの学び	E 児
<p>大楠探検</p> 	<p>大楠が、日本で3ばんめになったのは、どうしてか分からなくて考えました。</p>
<p>交流タイム</p> 	<p>今日、社会でかんそう交流をしました。大ぐすたんけんでは、まず、まきじゃくで、一番下の所を調べて、私たちは16mで短すぎだったのでグループの人にきいてみたら、2通りのいけんでどっちか分かりませんでした。今度は、<u>足ではか</u>って41歩あったので、<u>すごいな</u>と思いました。そして、<u>はっぼうスチロールで木を守っている</u>なんてびっくりしました。<u>せんそうのときも</u>ずっと<u>生きている</u>ので、<u>すごいな</u>と思います。</p>
<p>対話</p> 	
<p>クラス</p> 	

図5 交流タイム を通しての変容

イ 交流タイム (9/12)

表3 交流タイム の発言から (抜粋)

C1: ぼくは、泣きびす地蔵さんを調べました。若木町の中では5か所もあってほかの町にはないそうです。おばさんにインタビューをしたらいつもおまいりに来ているそうです。夜中に泣く子どもが泣かなくなるだけじゃなくて、その子どもが病気になることなくずっと元気になるようにと願いがあるそうです。こんな不思議なものが近くにあるなんて知りませんでした。

C2: C1に付け加えて、ぼくは昼休みに分からなかったことを館長さんに教えてもらってよく分かるようになりました。Nくんたちが来ていたので、ぼくが調べたことと教え合いました。探検グループの話合いでは、一緒に調べたR君やOさんとも分かったことを出し合いました。

C3: 私は、ためとも石のことを調べました。おじいさんたちが生まれるずっと前から若木町にあったそうです。このためとも石は、すごく大きいです。知らない人もいるみたいなので、むかしじまんの発表で教えてあげたいです。

E: 別のむかしじまんでもいいですか? 私は、えびすさんを調べました。えびすさんの前には、「ふく市や」というのがあって、それは、「ふくいちや」のものだけど、かい道を通るみんながおまいりしていたそうです。えびすさんは、あっちこっちにあるそうだけど、外に置いてあるのはこの辺りではここだけだそうです。とても大事にされているそうです。

子どもの学び	E 児
<p>街道探検</p> 	<p>私は、唐津かい道でえびすじぞうを調べました。まず顔をかいて手ざわりをためしました。町の人にインタビューすると書いていたけど回りにぜんぜんいなくて館長さんに聞くといろいろなことが分かりました。ふく市という店があってそれは大切にしていたそうです。</p>
<p>公民館の方と調べ活動</p>	
<p>交流タイム</p> 	<p>私は、むかしじまんで調べて分かったことを発表しました。かい道のえびすや大こくが有名で町の人から大切にされていることが分かりました。唐津かい道にあったふく市という店が作りかい道を通る人も大切にしていたそうです。これからもかい道のむかしじまんと町の人たちのことを自分でも大切にしたいと思います。</p>
<p>対話</p> 	
<p>クラス</p> 	

図6 交流タイム を通しての変容

表3からは、文化財の観察を通して気付いたこと、そして、地域の人々からの働きかけを受けながら考えたことを基に話し合いを進めていることが分かる。街道探検後のEの考え(図6上)では、1つの文化財調べにとどまってしまう、本単元のねらいである「人々の思いや願いを受けて、自分なりの考えを形成する」までには至らなかった。しかし、Eは、公民館の方や友達と話し合うことを通して、「むかしじまをみんなが大切にしてきたこと」や「町の人たちの気持ちも大切にしていきたい」という考えを表出するようになった。このことから、Eの思いが、上に挙げたねらいについて迫っていったことがうかがえる。

ウ 交流タイム (12/12)

表4は、本単元の学びを振り返っているときの発言から抜粋したものである。その中では、町の文化財は大切だけれども、それだけではなくて受け継がれてきた心、つまり地域の人々の思いや願いも大切だということを共有することができた。交流タイム後の発信活動では、公民館の方々と、「むかしじまんをたくさんの人たちに発信できること」「人々の願いが、今まで大切に残されてきたこと」などについて話し合うことができた。

表4 交流タイム における子どもたちの発言(抜粋)

- C1: ぼくもむかしじまんは大事だけれど、人の気持ちはずっと変わらないから、大切にしたいという気持ちだと思います。  
 E: 私も同じです。むかしじまんには、願いがあるからそれがちゃんと分かっているから、また作られるかもしれないし、気持ちはなくならないから。  
 C2: むかしじまんは、もしかしたらなくなったとしても、昔から受け継いできたものだし、大切にしてきたことは、心の中にずっとあると思います。  
 C3: むかしじまんは、むかしじまんとして残ると思います。友達みたいな感じです。  
 C4: 大楠は、昔から大切にされてきたし、みんなを守ったりしているから感謝の気持ちがあると思います。  
 C5: おじいちゃんやおばあちゃんたちからもかわいがられてきてるし、大楠も大人になっても、忘れないと思います。  
 C6: 大楠も、戦争のころも残っていたし、ずっと生きてきたから。



図7 子どもたちが作成した唐津街道の地図

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア ガイドブックを事象との出会い及び調べ活動を中心に活用させることにより、自己の学習課題について追究していくときの学び方が身に付いてきた。

イ 地域の人々(先人たち)との学び合いを調べ活動及び交流タイムに位置付けることにより、子どもたちは、「私たちの大切な町」を意識した考えを形成していくようになってきた。このことは、地域の人々と交流する活動は楽しい」と答えた子ども(図8)及び図

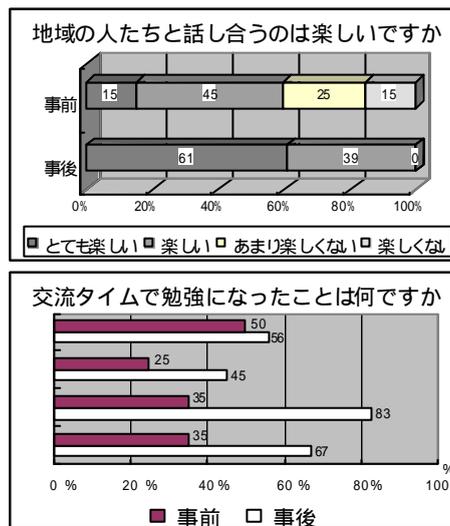


図9の項目について課題について話し合うことにより、分かるようになること相手の意見を受けて自分の考えに付け加えたり、見直しをしたりすること課題に沿って自分の考えを発表することみんなと話し合うことによって、町や市の人たちの気持ちが想像できること  
 point  
 項目では、50%近くの伸びが見られる。

図8(上)、図9(下) 交流タイムに対する意識

9の項目「話合いによって、町の人たちの気持ちが想像できること」と考えた子どもたちが増加したことから、これらの活動の有効性がうかがえる。

(2) 今後の課題

ア ガイドブック「わたしたちの若木町」の今後の作成に当たっては、他の単元においても活用できるように、年間プランを参考にしながら取り組んでいきたい。また、郷土資料「佐賀の先人たち」においては、県内の子どもたちが先人たちの業績を学習する際に活用できるように、各市郡ブロック別に作成していきたいと考える。

イ 本研究において実践した単元は、地域の歴史的事象にかかわる学習が中心であった。今後も、他の単元及び他の学年の学習において、地域の人々(先人たち)との学び合いを位置付け、3つの手立てからのアプローチを図っていきたい。